

30年前の風景

『らいふすてーじ』創刊から30年。文化、社会に科学技術。私たちを取り巻くものはすべてが姿を変えてきました。

ここでは、30年前とその前後にあたる1980年代、日本がどのようなであったかを少しだけ紹介してみたいと思います。

交通手段



Memo

1980年代は高度成長期から続いた経済成長の結果として日本中で急速に自動車が増え、現在へとつながる車社会が発展しました。1984年の時点で運転免許の所有者が全国で人口1億2千万人中5,000万人を突破します（ちなみに2013年現在では8,100万人）。

1980年代後半にかけてバブル期に向かい駆け上がっていく経済状況の中、全国で高速道路網が次々と整備されていったことも相まって、鉄道はそれまでの交通手段としての特権的地位を徐々に失っていきました。1987年には日本国有鉄道（国鉄）が他の会社に続いて民营化され、おなじみのJRが誕生しました。

メディア



Memo

1982年に音楽CDが登場します。大きさが当時の容量が圧倒的に大きい、何回再生しても音質が劣化しないなどの便利な特徴を持っていて、レコードやカセットテープなどの当時主流であったアナログ音声メディアを急速に置き換えていきました。

一方、1985年には日本電信電話公社（電電公社）が民営になり、NTTが誕生。同時に通信が自由化されました。それまでは通信法によって制限されていたパソコン間通信、インターネット経由の電子メールなどの今では当たり前の通信手段が、日本ではこの時初めて自由に使えるようになりました。

大学生活・若者文化



※イッキ飲みは危険なのでやめましょう。

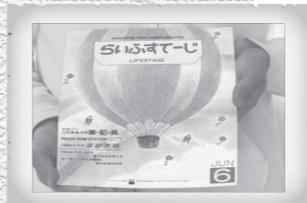


Memo

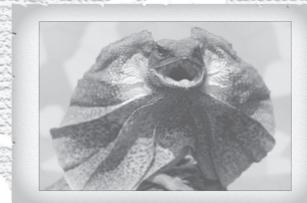
1980年代の大学進学率は25%前後で、現在の6割程度でした。センター試験の前身である共通一次試験が始まった時期に重なります。当時の学生は男女ともに今で言う「肉食系」であり、今よりもずっと大学生活を謳歌していたそうです。大学生が遊びまわるというイメージが定着したのはこの頃で、大学のレジャーランド化や脱エリート化といったことが言われました。

1980年代の若者は「新人類」と呼ばれる世代に当たります。軽く明るい性格が好まれるようになり、音楽では湿っぽいフォークソングが廃れ始めて軽快なロックミュージックの流行が始まります。社会的にはフリーターと呼ばれる人種が急増。社会的な責任や義務を嫌い、定職に就かずアルバイトを渡り歩くなどの態度はより年長の世代には理解できないものとして映りました。

その他 1984年の出来事



6月、『らいふすてーじ』の記念すべき第1号が刊行されました。この頃の『らいふすてーじ』は表紙に色鉛筆や水彩画による手書きの絵を使っていました。



CMをきっかけにエリマキトカゲが空前の大ブームを引き起こし、6月に初来日しました。しかし、輸入や飼育が困難だったこともあり、すぐに流行は去ったようです。



第1回新語流行語大賞が発表されました。金賞は「オシンドローム」。連続テレビ小説「おしん」に日本中が共感した現象を、アメリカの雑誌記者が名づけたものです。



11月、紙幣の肖像画が一新されました。一万円札が福沢諭吉、五千円札が新渡戸稲造、千円札が夏目漱石になり、五百円札が廃止されて硬貨になりました。